

マンガ+おもしろい解説で楽しく学ぶ！ 歴史人物・できごと新事典

対象

小学校高学年以上

仕様

A5判・2C / 511p (本文 454p)

作業内容

構成提案・原稿執筆・編集校正・図版用資料収集

作業期間

18 か月 (企画段階もふくむ)

本書表紙



この仕事のポイント

- 「おもしろい」読み物になるように、取り上げる人物、トピックスや文章に工夫した。
- 最新の“できごと”“人物”も、豊富に掲載。例)「ビジネスジェット、初公開」(2015年4月)
- ユニークかつ正確・わかりやすいイラストのための、参考資料収集を目指した。



心がけたこと①

- かた苦しくならないような「インパクトのある見出し」「楽しいキャッチコピー」をつけるようにしました。

ページ例

201 クラーク
教育者（明治時代）
札幌農学校初代教頭に就任したクラーク。彼が「Be Gentleman」を教えた。8か月に在任し、少年よ、大志を抱け！

エピソードのマンガ
南北戦争の真実が来日？
ウィリアム・スミス・クラークはアメリカ合衆国マサチューセッツ州に生まれた。30代には南北戦争（1861～1865年）にも参戦。軍功をあげたという。アマースト大学の教員。留學生の新島襄と出会った。これがきっかけで「お前、大志を抱け！」として日本にまねかされたんだ。

クラークって、どんな人？
いちばん有名な「助っ人」外国人教師。明治政府にまねかれ、札幌農学校でキリスト教精神のもとづく教育を行った。在任期間はわずか8か月だったが、優秀な多くの人材を育てたんだ。

8か月ですごい人材を育成
ここでクラークは教頭として、キリスト教精神にもとづいた教育を行った。専門の植物学のほか、農学や神学も教えたんだ。学生にはこうした知識だけでなく、自主・自立の精神を教えた。

クラークの赴任先は、北海道の札幌農学校だった。東京で開拓使の仮学校として開校し、1875年に札幌に移転したんだ。現在の北海道大学だよ。

クラークの名言
少年よ、大志を抱け！
ボリス・ビートルンビヤス（大きな夢や野心をもって生きよう。かっこいい名言だよ）

かっこいい話
模範なんていらないぜ
クラークをまねいた責任者は、開拓使の長官、黒田清隆（31歳）だった。開校時、クラークは黒田から「学校の校則がどうしようか」という相談を受けた。それにに対しクラークは「ゴッ！ ジェンラン（紳士）であれ。あれ（ついでに）と答えたという。紳士とは、品格が備わった礼儀正しい人のこと。自主・自立の精神を重んじるクラークは、細かい校則で学生たちをしばりたくなかったんだ。

315 モーツァルト
音楽家（近世）
陽気な「神童」、名曲を大量生産
「神童」と呼ばれた天才音楽家。その生涯で残した曲は、600以上ともいわれているよ。

6歳でヨーロッパ演奏ツアー
スバぬけた才能を、子どもでも「神童」という。モーツァルトはまさに「神童」だった。6歳で、はじめて作曲。6歳になる、ヨーロッパ各地の宮廷にまねかす王の前で演奏を披露した。その

楽しいタイトル「エム」を作曲中
モーツァルトが6歳のころ、演奏先の宮殿の床でころんと落ちてきたとき、やさしく抱っこしてくれた7歳の女の子。思わず「プロポーズ。少女よ、ここにフランシス姫で処刑す。」と「マリリアン」だった。

おまかせな話
モーツァルトが6歳のころ、演奏先の宮殿の床でころんと落ちてきたとき、やさしく抱っこしてくれた7歳の女の子。思わず「プロポーズ。少女よ、ここにフランシス姫で処刑す。」と「マリリアン」だった。

316 ベートーヴェン
音楽家（近代）
しめつ面の楽聖、音のない世界を克服
「楽聖」と呼ばれたドイツの作曲家。耳が聴こえなくなった後も、すくなく曲を残したよ。

ベートーヴェンって、どんな人？
陽気なモーツァルトに対して、ベートーヴェンはちよつと陰気。気難しく、周囲にいつもしわをよせていた。でも、音楽の才能はモーツァルトと同じくすばらしいものがあった。

これに決めた話
「第九」が基準
コンパティディスク（CD）を開発しているときの、記録時間を60分にする74分にするか、意見が分かれていた。結果、ベートーヴェンの交響曲「第九」を完全収録できる長さを目ざして、74分になったんだ。

マルクスは『共産党宣言』の冒頭で「共産主義」を何にたとえている？ ①太陽 ②神 ③妖怪



心がけたこと②

- メリハリのある紙面になるように、主要人物のエピソードをマンガで見せ、「〇〇な話」「〇〇の名言」などのコラムをいれて、変化に富んだ紙面にしました。



エディットの強み

- 小学社会の教科書内容を熟知しているので、とくに中学受験を予定している児童にも必要な知識を的確にまとめることができます。
- 「学校教材のノウハウを一般書へ」というエディットの強みから、この書籍テーマを「大人向け」に仕立て直すこともできます。

■ 140

三井高利

商人 (江戸時代)

1622~94年

伊勢の国出身





三井高利ってどんな人?

江戸で呉服店を開き、ライバル店を押し、大成功。その商いは、すぐれた商人でもあった母親の教えによるものであった。

画期的な商い

高利は伊勢の国(三重県)に生まれた。商人の家系で、14歳で江戸で呉服屋を営む兄のもとへ修業

に出た。高利は商才を発揮するだけ、十数年ほど経って、年老いた母の面倒を見るように、実家に戻されてしまった。兄が亡くなる、1673年、息子たちとともに江戸で呉服屋「越後屋」をオープンする。越後屋はそれまでの呉服屋ではあたり前だった「節季払い」をやめ、店頭での現金(金)払いとするなど、画期的なアイデアに満ちていた。盆と年末などに何回かまとめて支払う「節季払い」は、支払までの「掛け値(利子)」が上乗せされていた。現金払いにするかわりに掛け値をなくし、値段を安くしたんだ。また、反物も一反から端切れまで販売した。欲しい分量をその場で安く買える越後屋は、庶民にも大人気。越後屋は、のちの三越百貨店の三井財閥のもとになるんだよ。

■ 141

紀伊国屋又左衛門

商人 (江戸時代)

1622~94年

伊勢の国出身





紀伊国屋又左衛門ってどんな人?

幕府の仕事をうけおいた大もうけ。活躍は一代かきりだっただけ、商いのしかたや裏金つくりはさまざま。また、伝説に燃やれている。

伝説の豪商

文左衛門は紀伊の国(和歌山県)に生まれた。20代ごろ、荒波をこえ、紀州みかんを江戸へ運んで

売りさばき、得たお金で江戸の京橋、八丁堀に材木店を開いたといわれている。このころの江戸は火事が多く、また浮世の徳川頼宣(→ペーシ)によつて寺社の建設や再建がさかんに行われた。文左衛門にとっては大チャンス。材木を買い占め、土木建築業もはじめた。幕府の柳沢右保や荻原重秀などに気に入られ、仕事をうけおつたことになった。「袖の下(わいろ)」を使つたといわれる。もうけを得るだけじゃない。お金を使うのも豪邸で、一晩で千両も使つたが、いろんな伝説がある。でもその活躍は一代かきり。引退後は、買い占めた材木が火事で焼けて大損して落ちぶれたと、たくわえた金でゆつゆと余生を送つたといわれている。

「袖の下」を贈るために使われる言葉は? ①カネステラ ②金五郎 ③金五郎

■ 142

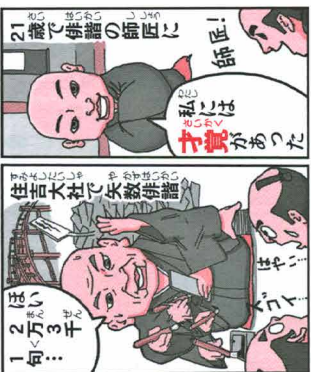
井原西鶴

俳諧師・小説家 (江戸時代)

1642~93年

河内の国出身





井原西鶴ってどんな人?

俳諧や小説で活躍した。町に暮らす人々の生活を小説に生き生きと描き、浮世草子という新ジャンルをつくりだした。

一昼夜に2万句

西鶴は河内の国(大阪府)の裕福な商人の家に生まれた。本名は平山藤五という。10代のときに西山宗因に弟子入りをして俳諧を学んだ。宗因の俳諧は、形式にとらわれない自由なスタイルで、談林派と呼ばれていた。西鶴はすぐれた句をつくり、21歳のときには師匠になつてた。一昼夜でこれだけの句がつけれるが、年数俳諧も得意で、2万3500句もよんで大評判になった。

人々の生き様を

西鶴は1682年、41歳のときに小説「好色一代男」を書き、大ヒットを飛ばす。西鶴が描いたのは、この世に生きる人々の生活や喜怒哀楽の気持ち、すなわち「浮世」の生活だ。教訓・道徳を主とした「仮名草子」を発展させ、浮世草子というジャンルを打ち立てた。「好色一代男」は、主人公世之介の7歳から60歳までの恋愛をうり返るものだ。翌々年には「枕草子」を川柳(→29ページ)に変更して江戸でも出版された。「好色一代男」のヒットにより、西鶴は「八百屋お七(→29ページ)」など5人の女性との恋愛にまつわる小説「好色物語」を書いたんだ。その後は「武家物語」を、カキキツや義理といった武士の世界を「武道伝来記」などに書き、最後に西鶴が行きついたのは町人の生活を描いた「町人物」だった。大町という町に生まれ、町に暮らす人々の生活をじっくり見てきた西鶴ならではのりものだ。「世に錢ほどもおもしろいものはない」と、町人の金もつけない成功・失敗話の「日本永代蔵」、大町に借金を取り立てる商人と町人の攻防を、おかしくも悲しく描いた「世間調書用」がある。



浮世の月と2年見すじ

1693年、西鶴は絶筆で亡くなる。死の間際まで、筆を放さなかったらしい。「浮世の月見すじにけり来二年」(人間50年が寿命といつて、自分はそこまで生きるつもりではなかったが、それを2年も生きてしまった)が最後の句だ。

「世に錢ほどもおもしろいものはない」と、町人の金もつけない成功・失敗話の「日本永代蔵」、大町に借金を取り立てる商人と町人の攻防を、おかしくも悲しく描いた「世間調書用」がある。

郷土の発展につくした人々

このページでは、郷土の発展につくした人物、時代を自らの臂で伸ばした人々を紹介しています。

菊池寛 (1846~1918年)
「二十世紀なし」の
一生涯をかけたよ

中條政恒 (1841~1900年)
立戸藩の藩士で、
歩道川から水を引いた。
富田の発展は
玉川上水のおかげじゃよ

玉川兄弟 (17世紀後半)
新田藩で勤王した。
新田市中区富田町に
わしの名が
残っているらしいな

吉田武兵衛 (1611~86年)
安政の地獄のとき
海防からの通商路が見えるよう、
自分の山にあったワラの山に
火をつけた。「ワラの火」と
呼ばれるよ

濱口梧陵 (1820~85年)
「伊予がすなり」を
つくったの

伊波普猷 (1875~1947年)
沖縄の近代文化を
開拓し、広く伝えた。
みな「沖縄学之父」と
呼んでくれる

布田保之助 (1801~73年)
中に水運を整えた
石垣 (建築家) を
つくったんじや

北郷永治 (1878~1950年)
「伊予がすなり」を
つくったの

田辺朝郎 (1881~1944年)
鹿屋藩から京都まで
鹿屋藩の水を引いたよ

水野龍 (1898~1968年)
徳島平野といえは
チューリップ、
その育ての親だよ

和井内貞行 (1858~1922年)
十和田湖で、
つゆまつの産物を
高値で売ったんだ